

学生便覧
2026年度

国際人文学部
国際交流学科

B2026-3-2

目次

I	教育研究上の目的	2
II	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	2
III	教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）	2
IV	授業科目について	3
V	授業科目の単位と認定	3
VI	卒業に必要な単位について	3
VII	進級条件及び各学年における必修科目	4
VIII	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	5
1.	全学部共通基盤科目群	6
2.	外国語科目群	9
3.	キャリア形成科目群	13
4.	専門基礎科目群	14
5.	専門科目群	15
(1)	専門科目群Ⅰ（国際関係・国際協力）	15
(2)	専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）	16
(3)	専門科目群Ⅲ（日本語教員養成）	17
(4)	専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）	18
6.	専門科目群Ⅴ（英語教員養成）	19

I 教育研究上の目的

国際人文学部は、世界の多様性と人間の諸活動についての学際的な教育研究を通じて、語学力と国際的な教養、社会人に必要な知識とスキルを十分に身に付け、国際社会で活躍できる人材を養成する。

国際交流学科は、国際社会を構成する多様な人々の諸活動や諸課題に関わる人文社会系の教育研究を学際的にを行い、実践的な語学力、国際交流のための知識及びコミュニケーション能力を身に付けた人材を養成する。

II 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

国際人文学部国際交流学科は、所定の単位を修得し、かつ以下に該当すると判断した場合に、学士（国際交流）の学位を授与します。

1. 日本語、英語、選択した第二外国語を聞き、読み、話し、書くことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
2. 国際的な視点から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。
3. 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働を行うために前提となる諸要素について理解することができる。
4. 言語、文化、社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。
5. 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。
6. 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。
7. 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

III 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

国際人文学部 国際交流学科は、教育研究上の目的及びディプロマ・ポリシーに基づき、実践的な語学力、国際交流のための知識及びコミュニケーション能力を身に付けた人材を育成するため、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成します。

1. 文理融合型リベラルアーツとして、幅広い教養、新たなリテラシー及び総合的な洞察力を身に付けるため、全学部共通基盤科目群を設置する。
2. グローバル社会における教養としての言語、専門分野の学修に必要な言語を身に付けるため、外国語科目群を設置する。
3. 学生生活を充実させ、キャリア形成や生涯学習に資する主体的・自律的な学びを実現するため、導入期教育・ポートフォリオ作成などに関するキャリア形成科目群を設置する。
4. グローバル化する文化や社会、コミュニケーションのあり方について多様な切り口から学び、文学・歴史・地理・法律・経済・政治など専門分野の学びの基礎を身につけるため、専門基礎科目群を設置する。
5. 世界各地域の多様な社会・文化とその相互交流、国際社会のルールとしくみなど、国際関係・国際協力に関する専門知識を身に付け、活用できるように、専門科目群Ⅰを設置する。
6. 言語学、外国語学習、異文化理解など、国際コミュニケーションに関する専門的な知識・技能を身に付け、活用できるように、専門科目群Ⅱを設置する。
7. 第二言語としての日本語を教える体系的な知識・技能、言語教育の専門家としての態度を身に付け、活用できるように、専門科目群Ⅲを設置する。
8. 演習及び研修・インターンシップを通して、専門分野の学びの実践と発展をはかるため、専門科目群Ⅳを設置する。
9. 専門分野の学びに係る教育職員免許状を取得するため、専門科目群Ⅴを設置する。
10. アセスメント・ポリシーに基づく学修アセスメント・プランを提示し、ディプロマ・ポリシーに示す能力の修得状況及び学生の成長に伴う達成度を客観的に測定、評価する。

以上の教育課程の編成に基づき、各授業内容に応じて、知識の修得を目的とする「講義」、知識や理論を組み合わせ実践力を養うことを目的とする「演習」、事象の検証や実践的な応用、技術や技法の修得を目的とする「実習」を取り入れた授業形態を採用します。また、社会のニーズを踏まえた教育を展開することができるよう、実務家教員を配置します。さらに、効果的な授業人数の調整やICTを活用した教育方法を導入し、より効果的な教育を実施します。

IV 授業科目について

国際人文学部国際交流学科における授業科目は、全学部共通基盤科目群、外国語科目群、キャリア形成科目群、専門基礎科目群、専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴから構成されている。

なお、専門科目群Ⅴは、教職課程に登録している者（教職課程登録カードを教務課に提出し、定められた期日までに登録費及び課程費を納めた者）のみが履修することができる。修得単位は、卒業単位に含まれない。ただし、4年次に教育実習受講要件を満たす者が「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の単位を修得した場合、その単位を卒業単位に含むことができる。

V 授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは、一つひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・Cの4段階の評価により行う。評価がFの場合、単位を認定しない。なお、N・Hは、単位振替により単位を認定したことを表す。

なお、履修登録にあたっては、**履修登録できる単位数の上限（キャップ）に注意すること**。各クォーター（S1, S2, F1, F2）のキャップは16単位、サマー・セッション（SS）とウィンター・セッション（WS）のキャップは6単位、年間のキャップは原則 42 単位 である。

年間のキャップは、4月入学生、9月入学生ともに、4月から3月の期間で計算する。

通算GPAが2.0以上の場合、年間のキャップは49単位となる。ただし、42単位を超えて登録した者が通算 GPA 2.0を下回った場合、次のクォーターの履修訂正期間に、年間のキャップが42単位以下となるよう登録科目を削除しなければならない。

VI 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。

専門科目群Ⅴの科目は原則として卒業に必要な単位には含まれないので、注意すること。

系 列	コース	国際人文学部 国際交流学科
		必 要 単 位 数
全学部共通基盤科目群		15
外国語科目群		24
キャリア形成科目群		7
専門基礎科目群		12
専門科目群Ⅰ（国際関係・国際協力）		40*
専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）		
専門科目群Ⅲ（日本語教員養成）		
専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）		8
専門科目群Ⅴ（英語教員養成）		なし**
上記の科目群ごとに定められた最低修得単位数とは別に、卒業に必要な単位を20単位以上修得すること。この単位数には、学科が卒業単位と認定する他学科提供のオープン科目を含めることができる。		20
計		126 単位

* 専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲそれぞれの最低修得単位数欄および備考欄に記載の要件を全て満たすことが必要である。

** 英語科教育法の修得単位は、**教職課程に登録している者で4年次に教育実習受講要件を満たす者のみ**、卒業単位に含むことができる。それ以外の科目の修得単位は、卒業単位に含まれない。

VII 進級条件及び各学年における必修科目

1年から2年への進級にあたっては、15単位以上を修得していること。

2年から3年への進級にあたっては、50単位以上を修得していること。また、1年次の必修科目の単位を修得していること。ただし、50単位以上の単位を修得している場合には、1年次の必修科目の未修得単位数が6単位以下の者の進級を、国際人文学部の決定により認めることがある。他に、2年次に長期留学をし、海外留学に伴う単位認定を予定している者の進級は認めることがある。

3年から4年への進級にあたっては、3年間の学業を遂行し、84単位以上を修得していること。

各学年における必修科目は、次の表に示すとおりである。

科目群	必修科目
全学部共通基盤科目群	「アカデミック・スキルズ」(1年次) 「デジタルアプリ A」(1年次) 「データサイエンス I」(2年次履修を推奨)
外国語科目群 ※	「Fundamentals of English I」または「English for Specific Purposes A」*(1年次) 「Fundamentals of English II」または「English for Specific Purposes B」*(1年次) 「Oral Fluency I」または「English for Advanced Studies A」*(1年次) 「Oral Fluency II」または「English for Advanced Studies B」*(1年次) 「Basic Writing Skills I」(1年次) 「Basic Writing Skills II」(1年次) 「Intermediate Practical Discussion Skills I」(1年次) 「Intermediate Practical Discussion Skills II」(1年次) 「第二外国語」I・II・III・IV(1年次)**
キャリア形成科目群	「基礎ゼミ A」(1年次) 「基礎ゼミ B」(1年次) 「キャリア形成演習」(2年次)
専門基礎科目群	
専門科目群 I (国際関係・国際協力)	
専門科目群 II (国際コミュニケーション)	
専門科目群 III (日本語教員養成)	
専門科目群 IV (ゼミ研修・実践)	「国際交流演習 I」(3年次) 「国際交流演習 II」(3年次) 「国際交流演習 III」(4年次) 「国際交流演習 IV」(4年次)
専門科目群 V (英語教員養成)	

* 「English for Specific Purposes A・B」, 「English for Advanced Studies A・B」は、国際人文学部の協議で優れた英語力を有すると認めた者のみが履修できる。外国人留学生は、全学部共通基盤科目群の備考欄を参照すること。

** 第二外国語一か国語の I・II・III・IV(8単位)を選択必修する。たとえば、ハンガリー語を選択した者は、「ハンガリー語 I」「ハンガリー語 II」「ハンガリー語 III」「ハンガリー語 IV」のすべてが必修となる。

※外国で学校教育における12年の課程を修了した学生またはこれに準ずる学生は、外国語科目群の備考欄を参照すること。

VIII 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

〔留意事項〕

- (1) 「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で表示された科目は、数字の順序に従って履修する。同一クォーターで複数履修することはできない。Ⅰの単位を修得することでⅡを履修できる。
- (2) 「A・B」で表示された科目は、アルファベットの順序に従って履修せずともよい。同一クォーターで複数履修することができる。
- (3) 「ⅠA・ⅠB」は一方又は両方を履修できる。ⅠAの単位を修得することでⅡAを履修でき、ⅠBの単位を修得することでⅡBを履修できる。
- (4) 実際の履修については、シラバスに記された各科目の履修要件をよく確認すること。
- (5) 単位数が○で囲まれた科目は、必修科目である。
- (6) 本学はクォーター制をとっている。ほとんどの科目は、S1, S2, F1, F2の4つのクォーター、ならびにSS, WSの集中講義期間のいずれかに開講される。ただし一部に、S1・S2またはF1・F2を通して開講される科目がある。またSSとWSの集中講義期間には、数日間同じ科目の授業が続けて実施される。さらに、研修・インターンシップ等は、学期の枠と関係なく実施される場合もある。
- (7) 全ての授業科目は、年度初めに履修登録を行う。
- (8) 原則として上位学年の者は、下位学年に配当されている科目を履修できる。たとえば1年次の枠のみに単位数が記載されている科目であっても、2年次以降も履修できる。ただし、授業内容は学年が進むほど専門性が高くなるように設定してあるので、それぞれの科目の配当年次で履修することが望ましい。

1. 全学部共通基盤科目群

全学部の学生を対象に設けた科目群である。各学部の専門の学びの基盤となる文理の壁を越えた幅広い教養、新たなリテラシー及び総合的な洞察力を身に付けることを目的とする。1年次から履修できる科目が多いが、いずれも専門的な内容であり、2年次以上に履修することで深く理解できる場合もある。その点をふまえて、計画的に履修すること。

【カテゴリ】

- (1) 大学での学びの基盤を固める—文献を調べる、論文を書く、プレゼンテーションをする、議論するための基礎を学ぶ [スタディ・スキルズ]
- (2) 現象世界をつかむ—自然、生命、生態の理解を目指して、実験科学の知見を広める [生命科学、環境科学など]
- (3) デジタル社会を切り拓く—科学と技術の未来を支える数理的思考を深める [統計学、データ分析の基礎、情報セキュリティ入門、人工知能、データサイエンス、デジタルアプリなど]
- (4) 現代社会の課題に挑戦する—学問の領域を超えて複眼的思考を身につけ、複雑な現代社会の課題に挑戦する [観光の現在と未来、スポーツ社会学、ボランティア論、地域プロジェクトなど]
- (5) 歴史をひもとく—歴史を読み解く力により、現代社会の通念をうち破り、未来社会を切り拓く [日本史を学ぶ、アジア史、現代史、メディアの歴史(テレビ番組)など]
- (6) 社会の構造的変動をとらえる—現代社会が直面する複合的な課題を構造的に分析する力を養う [マーケティング論、広告戦略論、社会学、社会調査、法律学、著作権、政治学入門、経済学入門、社会福祉学など]
- (7) 世界を創造する—文化、芸術、文学を全人的に体験して創造力を高める [美学・芸術学、演劇・舞台芸術論、文学を読む、世界遺産のいまなど]
- (8) 知の知を追究する—人間性の本質を探究し、新しい時代の理念、理想を追究する [哲学、倫理学、宗教学、数学、教育学、心理学、ジェンダー論など]
- (9) 心と身体の充実をはかる—トレーニング、チームプレー、ゲーム参加などを通して、豊かな人間性、社会性を育む [スポーツ科学、Drug Action Science、感染症とくすり、ハーブ・サプリメント・漢方薬など]

系列	カテゴリ	授業科目	年次及び単位数				最低修得単位数	備考
			1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目	大学での学びの基礎を固める	アカデミック・スキルズ	①				1単位	「アカデミック・スキルズ」を必修
	現象世界をつかむ	自然科学概論	2					
		生命現象の理解とその応用—生命科学	2					
		生物からみた環境の仕組み—生態学	2					
		食環境論	2					
		香りと環境	2					
		身体を理解	2					
	デジタル社会を切り拓く	デジタルアプリ A	②				4単位	「デジタルアプリ A」と「データサイエンス I」を必修
		デジタルアプリ B	2					
		情報セキュリティA	2					
		情報社会と情報倫理	2					
		人工知能論	2					
		データサイエンス I	②					
		データサイエンス II	2					
		モデル化とシミュレーション		2				
		プログラミングA		2				
		アルゴリズムA		2				
		情報システム論	2					
		統計学 *1日		2				
		Statistics *1英		2				
データ分析の基礎(解析)		2						
データ分析の基礎(線形代数)	2							
インターネット配信	2							

※ ★1日(日本語開講)と★1英(英語開講)の科目は同一科目につき、いずれか1科目のみ単位修得をすることができる。

系列	カテゴリ	授業科目	年次及び単位数				最低修得単位数	備考
			1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目	現代社会の課題に挑戦する	観光の現在と未来	2				10単位 「現代史入門」 「政治学入門」 「経済学入門」 「社会調査」 「法律学概論」 「世界遺産のいま」 「美学・芸術学」 「表象文化研究」 「世界の文学」 「文学を読む」 「異文化適応論」 「宗教学概論」 「倫理学概論」 の中から 計10単位以上を 選択必修	
		ヘルスツーリズム	2					
		社会心理学	2					
		生活と文化		2				
		生涯スポーツ概論	2					
		スポーツ社会学	2					
		ボランティア論	2					
		コミュニケーションの基礎	2					
		域学共創プロジェクト A	2					
		域学共創プロジェクト B	2					
		域学共創プロジェクト C	2					
		域学共創プロジェクト D	2					
		域学共創プロジェクト E	2					
		域学共創プロジェクト F	2					
		域学共創プロジェクト G	2					
		域学共創プロジェクト H	2					
	域学共創プロジェクト I	2						
	域学共創プロジェクト J	2						
	歴史をひもとく	史学概論	2					
		日本史を学ぶ	2					
		アジア史概論	2					
		現代史入門	*2					
		房総の文化と歴史	2					
		映像メディア史	2					
		音楽史	2					
	社会の構造的変動をとらえる	政治学入門	*2					
		経済学入門	*2					
		社会と経営	2					
		社会と会計	2					
		マーケティング論	2					
		広告戦略論	2					
		社会学	2					
		社会調査		*2				
		法律学概論	*2					
		日本国憲法	2					
		著作権	2					
		社会福祉学 A	2					
		社会福祉学 B		2				
	経営情報基礎論 A	2						
	世界を創造する	世界遺産のいま	*2					
		美学・芸術学	*2					
		表象文化研究	*2					
		世界の文学	*2					
		演劇研究	2					
		古典芸能研究	2					
		文学を読む	*2					
知の知を追求する	教育学	2						
	心理学	2						
	基礎の数学	2						
	ジェンダー論	2						
	根拠への問いー哲学へのとびら	2						
異文化適応論	*2							

系列	カテゴリ	授業科目	年次及び単位数				最低修得単位数	備考
			1年	2年	3年	4年		
全学部共通基盤科目 図る		宗教学概論	*2					
		倫理学概論	*2					
	心と身体 の充実を 図る	スポーツ科学 A	1					
		スポーツ科学 B	1					
		しゃべりのスキル Up I	2					
		Drug Action Science	2					
		症状に合わせた健康セルフケア	2					
		感染症とくすり	2					
ハーブ・サプリメント・漢方薬	2							

〔備考〕

- (1) 必修科目「アカデミック・スキルズ」「デジタルアプリA」は、1年次に履修すること。
- (2) 必修科目「データサイエンスI」は、2年次に履修することが望ましい。
- (3) 選択必修科目（「現代史入門」「政治学入門」「経済学入門」「社会調査」「法律学概論」「世界遺産のいま」「美学・芸術学」「表象文化研究」「世界の文学」「文学を読む」「異文化適応論」「宗教学概論」「倫理学概論」の中から計10単位以上）を選ぶにあたっては、3年次からのコース（国際コミュニケーションコース、国際関係・国際協力コース）での学びを意識すること。各コースの学びについては、専門科目群I・II・IIIの科目一覧を参照すること。
- (4) 上記以外の科目選択にあたっては、オンライン授業で修得できる卒業単位数には上限があるので、アドバイザー（指導教員）とよく相談すること。

2. 外国語科目群

本科目群には、グローバル社会における教養としての言語、専門分野の学修に必要な言語を身に付けるための科目を設置する。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
外国語科目群	Fundamentals of English I	*2				16 単位	<p>■日本で学校教育における12年の課程を修了した学生またはこれに準ずる学生</p> <p>8単位を必修し、*印のある科目から8単位を選択必修</p> <p>※「English for Specific Purposes A・B」, 「English for Advanced Studies A・B」は、国際人文学部の協議で優れた英語力を有すると認めた者のみが履修できる。</p>
	English for Specific Purposes A	*2					
	Fundamentals of English II	*2					
	English for Specific Purposes B	*2					
	Oral Fluency I	*2					
	English for Advanced Studies A	*2					
	Oral Fluency II	*2					
	English for Advanced Studies B	*2					
	TOEIC A	1					
	TOEIC B	1					
	TOEIC C	1					
	TOEIC D	1					
	Basic Writing Skills I	②					
	Basic Writing Skills II	②					
	Intermediate Practical Discussion Skills I	②					
	Intermediate Practical Discussion Skills II	②					
	Intermediate Writing Skills I		2				
	Intermediate Writing Skills II		2				
	Intermediate Reading Skills I		2				
	Intermediate Reading Skills II		2				
Oral Fluency III		2					
Oral Fluency IV		2					
Topics for Cross-Cultural Communication: Global Issues A				1			
Topics for Cross-Cultural Communication: Global Issues B				1			

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
外国語科目群	Advanced Discussion Skills			1			第二外国語一か国語の I・II・III・IV(8単位)を選択必修 ※外国で学校教育における12年の課程を修了した学生またはこれに準ずる学生は、第二外国語一か国語8単位に代えて、外国語科目群の英語8単位を選択履修してもよい。 ※※日本で学校教育における12年の課程を修了した学生またはこれに準ずる学生のうち、国際人文学部の協議でとくに必要と認める学生は、日本語を第二外国語として選択できるので、アドバイザー(指導教員)と相談すること。
	Advanced Reading Skills			1			
	Spoken Business English			2			
	中国語I	2				8単位	
	中国語II	2					
	中国語III	2					
	中国語IV	2					
	韓国語I	2					
	韓国語II	2					
	韓国語III	2					
	韓国語IV	2					
	ドイツ語I	2					
	ドイツ語II	2					
	ドイツ語III	2					
	ドイツ語IV	2					
	フランス語I	2					
	フランス語II	2					
	フランス語III	2					
	フランス語IV	2					
	スペイン語I	2					
スペイン語II	2						
スペイン語III	2						
スペイン語IV	2						

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
外国語科目群	ハンガリー語I	2				8単位	第二外国語一か国語のI・II・III・IV(8単位)を選択必修 ※外国で学校教育における12年の課程を修了した学生またはこれに準ずる学生は、第二外国語一か国語8単位に代えて、外国語科目群の英語8単位を選択履修してもよい。 ※※日本で学校教育における12年の課程を修了した学生またはこれに準ずる学生のうち、国際人文学部の協議でとくに必要と認める学生は、日本語を第二外国語として選択できるので、アドバイザー(指導教員)と相談すること。
	ハンガリー語II	2					
	ハンガリー語III	2					
	ハンガリー語IV	2					
	ポーランド語I	2					
	ポーランド語II	2					
	ポーランド語III	2					
	ポーランド語IV	2					
	チェコ語I	2					
	チェコ語II	2					
	チェコ語III	2					
	チェコ語IV	2					
	日本語I	2				16単位	■外国で学校教育における12年の課程を修了した学生またはこれに準ずる学生 卒業単位になる日本語科目16単位を選択履修
	日本語II	2					
	統合日本語I	2					
	統合日本語II	2					
	日本語アカデミック・ライティング	2					
	日本語アカデミック・スピーキング	2					
	社会と文化の日本語A	2					
	社会と文化の日本語B	2					
日本語III			2				
統合日本語III			2				
専門日本語(ホテル・観光)			2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
外国語科目群	専門日本語(異文化コミュニケーション)		2			16単位	<p>■外国で学校教育における12年の課程を修了した学生またはこれに準ずる学生</p> <p>卒業単位になる日本語科目16単位を選択履修</p>
	ビジネス日本語I			2			
	ビジネス日本語II			2			
	キャリア日本語(就職)			2			
	キャリア日本語(進学)			2			
	Fundamentals of Japanese A	4					指定された交換留学生・短期留学生のみが、履修することができる。
	Fundamentals of Japanese B	4					
	Fundamentals of Japanese C	4					
	Fundamentals of Japanese D	4					
	JLPT Preparation	2					
	Intermediate Japanese Skills A	4					
	Intermediate Japanese Skills B	4					
	Intermediate Japanese Skills C	4					
	Intermediate Japanese Skills D	4					
	日本語(言語知識)	2					
	日本語(読解・聴解)	2					
	日本語A	2					
	日本語B	2					
	日本語C	2					
日本語D	2						
日本語E	2						

〔備考〕

- (1) 外国語科目群では、第一外国語として英語（外国で学校教育における12年の課程を修了した学生またはこれに準ずる学生は日本語）を学ぶ。単位数を○で囲んである科目は必修科目である。
- (2) IIを履修するためにはIの単位を、IIIを履修するためにはIIの単位を、IVを履修するためにはIIIの単位をそれぞれ修得していなければならない。

- (3) 国際人文学部の協議で優れた英語力を有すると認められた者は、「English for Specific Purposes A・B」「English for Advanced Studies A・B」の4科目を履修することになっているが、本学の海外教育プログラムのうち長期留学に派遣されるため履修できない科目についてはこの限りではない。
- (4) 日本語能力が N2 相当の水準に達していない場合は、国際人文学部が指定する日本語科目を履修すること。
- (5) 上記の最低修得単位数は、語学学習や海外留学を目的としない学生でも学ぶべきスキルを学ぶのに必要な科目、つまり学科での学びの最小公約数である。海外留学を希望する学生、語学の上位資格取得を目指す学生は、必修以外の選択科目も履修すること。第二外国語の選択にあたっては、希望する留学・研修先の言語ならびに要求される語学検定のスコア・級を必ず事前に調べておくこと。

3. キャリア形成科目群

本科目群には、大学で学ぶための基礎的な学力を身につけ、持続的なキャリア形成に資する主体的・自律的な学びを実現するための科目を配置する。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
キャリア形成科目群	基礎ゼミ A	①				7 単位	「基礎ゼミ A・B」, 「キャリア形成演習」 を必ず含めて、 7 単位以上を 選択必修
	基礎ゼミ B	②					
	キャリア形成演習		②				
	キャリア・デザイン ・インターンシップ	2					
	ビジネス入門	2					
	航空・空港キャリア概論 A	2					
	航空・空港キャリア概論 B	2					
	観光ビジネス基礎	2					

4. 専門基礎科目群

グローバル化する文化や社会，コミュニケーションのあり方について多様な切り口から学び，文学・歴史・地理・法律・経済・政治など専門分野の学びの基礎を身につけるための科目を配置する。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群	異文化理解	2				12 単位	※ ★2日(日本語開講)と★2英(英語開講)の科目は同一科目につき，いずれか1科目のみ単位修得をすることができる。 12 単位以上を選択必修 ※ ★3日(日本語開講)と★3英(英語開講)の科目は同一科目につき，いずれか1科目のみ単位修得をすることができる。 ※ ★4日(日本語開講)と★4英(英語開講)の科目は同一科目につき，いずれか1科目のみ単位修得をすることができる。
	世界の中の日本 ★2日	2					
	Japanese Culture Viewed Globally ★2英	2					
	国際コミュニケーション入門	2					
	留学プランニング	2					
	国際日本学	2					
	日本の歴史 A	2					
	日本の歴史 B	2					
	社会学入門	2					
	経済原論 A		2				
	経済原論 B		2				
	ヨーロッパの社会と文化 ★3日	2					
	European Society and Culture ★3英	2					
	比較文化概論	2					
	文化人類学		2				
	外国史概説		2				
	アメリカ文学概論	2					
	近代イギリス文学 ★4日		2				
	Modern English Literature ★4英		2				
人文地理学		2					

5. 専門科目群

国際交流学科の専門科目は5つの科目群に分かれている。専門科目群Ⅰ（国際関係・国際協力）は国際関係・国際協力コースに、専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）と専門科目群Ⅲ（日本語教員養成）は国際コミュニケーションコースに対応する科目群である。どちらのコースに所属するかは、専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）の3・4年次必修科目「国際交流演習」担当教員（指導教員）が決まった後に確定する。けれども、

- **国際コミュニケーションコース**教員の「国際交流演習」を選択する者は、**専門科目群Ⅱ・Ⅲより10単位以上**修得
- **国際関係・国際協力コース**教員の「国際交流演習」を選択する者は、**専門科目群Ⅰより10単位以上**修得

し、かつ、専門科目群Ⅰ～Ⅲで**各科目群2単位以上**かつ合計40単位以上を修得しなければならないので、1年次からコース選択を意識しながら計画的に履修し、系統立てて学習することが必要である。

なお、「専門科目群Ⅴ（英語教員養成）」には教育職員免許状取得などに必要な科目を配置するが、修得単位は原則として卒業単位に含まれないので、注意すること（「6. 専門科目群Ⅴ（英語教員養成）」を参照）。

(1) 専門科目群Ⅰ（国際関係・国際協力）

本科目群には、世界各地域の多様な社会・文化とその相互交流、国際社会のルールとしくみなど、国際関係・国際協力に関する専門知識を身に付け活用できるようになるための科目を配置する。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ (国際関係・国際協力)	国際協力論		2			専門科目群Ⅰ～Ⅲで 各科目群2単位以上 かつ 合計40単位以上 を修得	※ ★5日(日本語開講) と★5英(英語開講) の科目は同一科目につき、 いずれか1科目のみ単位修得を することができる。 国際関係・国際協力 コース 専門科目群Ⅰで 10単位以上を 選択必修
	国際ボランティア論		2				
	日本とアジア		2				
	アジアの女性論		2				
	日本とヨーロッパ ★5日		2				
	Japan and Europe ★5英		2				
	日本と北米		2				
	国際法			2			
	国際機構論				2		
	国際経済学				2		
	国際開発論				2		
	開発と女性				2		
	国際関係論				2		
	アジア国際関係論				2		
	ヨーロッパ地域文化研究				2		
アメリカ対外関係論				2			

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ (国際関係・国際協力)	文化交流史 (日本:アジア)		2			専門科目群Ⅰ～Ⅲで 各科目群2単位以上 かつ 合計40単位以上 を修得	国際関係・国際協力 コース 専門科目群Ⅰで 10単位以上を 選択必修
	文化交流史 (日本:欧米)		2				
	日本文化論		2				
	西洋美術	2					
	文化遺産		2				
	Topics in Culture and Society in Japan			2			
	Topics in Japanese Manga and Animation			2			

(2) 専門科目群Ⅱ (国際コミュニケーション)

本科目群には、言語学、外国語学習、異文化理解など、国際コミュニケーションに関する専門的な知識・技能を身に付け活用できるようになるための科目を配置する。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅱ (国際コミュニケーション)	言語学概論		2			専門科目群Ⅰ～Ⅲで 各科目群2単位以上 かつ 合計40単位以上 を修得	国際 コミュニケーション コース 専門科目群 Ⅱ・Ⅲ合計で 10単位以上を 選択必修 ※★6日(日本語開講) と★6英(英語開講) の科目は同一科目に つき、いずれか1科 目のみ単位修得をす ることができる。 ※★7日(日本語開講) と★7英(英語開講) の科目は同一科目に つき、いずれか1科 目のみ単位修得をす ることができる。 ※★8日(日本語開講) と★8英(英語開講) の科目は同一科目に つき、いずれか1科 目のみ単位修得をす ることができる。
	社会言語学			2			
	言語学				2		
	英語学概論 A		2				
	英語学概論 B		2				
	言語・非言語コミュニケーション論			2			
	第二言語習得論			2			
	異文化間コミュニケーション論			2			
	児童英語教授法Ⅰ ★6日			2			
	English Teaching Methodology for Young LearnersⅠ ★6英			2			
	児童英語教授法Ⅱ			2			
	英米児童文学 A ★7日			2			
	British and American Children's Literature A ★7英			2			
	英米児童文学 B ★8日				2		
British and American Children's Literature B ★8英				2			

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅱ (国際コミュニケーション)	発達心理学		2				
	International Communication		2				
	Language Acquisition		2				
	English Project Education A	2					
	English Project Education B	2					
	Mentor Program			2			
	English Teaching Methodology I		2				
	English Teaching Methodology II			2			
	Oral English for Children A		2				
Oral English for Children B			2				

(3) 専門科目群Ⅲ (日本語教員養成)

本科目群には、日本語を母語としない人に日本語を教えらるようになるのに必要な体系的知識・技能、言語教育の専門家としての態度を身に付け活用できるようになるための科目を配置する。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅲ (日本語教員養成)	日本語学概論 A	2				専門科目群Ⅰ～Ⅲで 各科目群2単位以上 かつ 合計40単位以上 を修得	国際 コミュニケーション コース 専門科目群 Ⅱ・Ⅲ合計で 10単位以上を 選択必修
	日本語学概論 B	2					
	日本語の音声		2				
	日本語の語彙・意味	2					
	日本語の文法 A	2					
	日本語の文法 B	2					
	日本語教授法 (教授法)		2				
	日本語教授法 (コースデザイン・評価)		2				
	日本語教授法 (教材・教具)		2				
	日本語教育事情			2			
	日本語教育実習Ⅰ			2			
日本語教育実習Ⅱ			2				

(4) 専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）

本科目群には、専門的な知識を学び、その実践と発展をはかるための科目を配置する。3・4年次には、全員がいずれかのゼミに所属して、綿密な専門教育を受ける。「国際交流演習Ⅰ・Ⅱ」は3年次、「国際交流演習Ⅲ・Ⅳ」は4年次の必修科目である。

他に、研修・インターンシップ科目を履修することもできる。1～3年次のうちに、いずれかの研修・インターンシップに参加することが望ましい。なお、「コミュニケーション・インターンシップ」は海外で日本語教育の実習を行うもので、日本語教員養成課程（副専攻）の選択科目でもある。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅳ (ゼミ研修・実践)	国際交流演習Ⅰ			②		8単位	
	国際交流演習Ⅱ			②			
	国際交流演習Ⅲ				②		
	国際交流演習Ⅳ				②		
	国際交流研修A	2					
	国際交流研修B	2					
	国際交流研修C	2					
	コミュニケーション・ インターンシップ	3					
	卒業論文				2		

〔備考〕

- (1) Ⅱを履修するためにはⅠの単位を、Ⅲを履修するためにはⅡの単位を、Ⅳを履修するためにはⅢの単位をそれぞれ修得していなければならない。
- (2) 「卒業論文」を履修登録する際は、必ず事前に「国際交流演習」の担当教員（指導教員）と相談し、各科目群の単位修得状況を確認しておくこと。

6. 専門科目群V（英語教員養成）

本科目群には、教育職員免許状取得などに必要な科目を配置する。**修得単位は原則として卒業単位に含まれない**。ただし、教職課程に登録している者で4年次に教育実習受講要件を満たす者のみが、「英語科教育法」の修得単位を卒業単位に含むことができる。

※教職課程に登録している者とは、教職課程登録カードを教務課に提出し、定められた期日までに登録費及び課程費を納めた者をいう。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群V (英語教員養成)	教育原理		2				「英語科教育法」の修得単位は、 教職課程に登録している者で4年次に教育実習受講要件を満たす者のみ 、卒業単位に含むことができる。
	教育課程論	2					
	教職論	2					
	教育心理学		2				
	特別のニーズ教育論		2				
	教育制度		2				
	教育方法論 (ICT活用を含む)		2				
	英語科教育法Ⅰ			2			
	英語科教育法Ⅱ			2			
	英語科教育法Ⅲ			2			
	英語科教育法Ⅳ				2		
	道徳教育の理論と方法	2					
	総合的な学習の時間の指導法		2				
	特別活動論		2				
	生徒指導（進路指導の理論及び方法を含む）		2				
	教育相談（カウンセリングを含む）			2			
	介護等体験			2			
	教育実習Ⅰ (事前及び事後指導を含む)				3		
教育実習Ⅱ				2			
教職実践演習（中・高）				2			